

介護の読み物

【ことば 1～5】

1. 「あいさつ」は人とつなぐ

『ご苦労さま』は、なぜ使ってはいけないのだろうか」というリンさんの疑問について考えてみましょう。「ご苦労」系労い言葉の変遷」（倉持益子、2011. 2、「明解日本語」第16号）には、次のように記されています。

幕末から1950年代までに労い表現として現れた数は、「お疲れ系」をはるかに上回るものであり、「ご苦労系」が代表的労い言葉であったことがわかる。しかし、誰に対して発したかで分析してみると、大正期頃、目上への使用例数と目下（部下）への使用例数が逆転し、その後、時代を経るに従いその差が開き続けている。この目下への使用というタイプのものは、明治時代以前には女性や一般的な町人の使用が多かったのに対し、大正以降では、軍人・警官が増えている。さらに通俗的時代小説にも大いに使われている。このことから、実際の軍隊での労い言葉「御苦労」が、徴兵男子を通じて国内に広まり、さらにそれが時代小説で多用されたことが、「もともと主君からの労いの言葉」という誤解の原因になったのではないか。最も一般的な労いの言葉は、上下関係の厳しい組織、例えば会社組織の中で、目上には使えないという神話が語り継がれ、現在に至ったのではないだろうか。<http://urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/16/013kuramochi.pdf>

また、文化庁平成17年度「国語に関する世論調査」結果では次のようになっています。

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h17/

	自分より職階が上の人の場合		自分より職階が下の人の場合	
	男性	女性	男性	女性
お疲れ様（でした）	67.2%	71.1%	48.5%	57.9%
ご苦労様（でした）	17.7%	12.8%	40.3%	32.0%
ありがとう（ございました）	10.3%	11.6%	4.7%	5.3%
どうも	1.3%	0.5%	3.6%	2.0%

「ことば1」のタイトルは、<「あいさつは人とつなぐ」>ですが、あいさつはまさに「潤滑油」であり、人と人とをつなぐ力になります。ただ、ことばだけではなく、相手の目を見て、笑顔で「おはようございます」等ということが大切です。

<明るい表情で、相手の目を見て、温かい言葉かけ>

ビジネスマナーのポイント（あいさつ）というページに、次のようなことが載っています（テンプスタッフ）。

あいさつ あ＝明るく
 い＝いつでも、誰にでも
 さ＝先に
 つ＝続けて、次の言葉を

<https://www.tempstaff.co.jp/staff/skillup/educationaltraining/guidance/pdf01.pdf>

また、「接遇マナー5原則」というものがあります。それは、以下の5点です。

1. 表情
2. あいさつ
3. 身だしなみ
4. 話し方
5. 態度

これについて、学習者同士で話し合ったり、考えてもらったりするのも良いのではないのでしょうか。

2. からだの慣用句と友達に

読み物では、「手が空いている」を例に出しましたが、これは看護・介護のスピーチコンテストでもよく挙げられる事例です。介護は利用者さんの日常生活に寄り添うことなので、いろいろな「からだの慣用句」が出てきます。学習者の関心の度合いによって、プラスしていくといいと思います。

* アグス：グエンさん、ちょっと手を貸してくれませんか。

グエン：はい、すぐ行きます。

* リン：グエンさん、私、今、ちょっと手が離せないんで、このシートを受付に届けてもらえませんか。

グエン：はい、わかりました。

また、からだに関する慣用句以外にも、いくつか挙げておきましょう。

* グエン：春田さん、腰がよくなってよかったですね。寝がえりが打てるようになりましたね。

春田：そうね。まだ恐る恐るだけど……。

* アグス：これ、夏川さんの弟さんの写真ですね。冬山さんと瓜（うり）二つですね。

夏川：そう？みんなに「声もそっくりだね」って、よく言われるんだよ。

* リン：冬山さん、歌の練習に熱が入ってますね。カラオケ大会はいつですか。

冬山：最初はあんまり気が乗らなかつたんだけど、大会が近づいてきたら……。

授業では、教師が出すだけでなく、学習者から介護現場や生活の中で、耳にしている言葉を聞き出すのもいいと思います。出てこなかったら、「これから周りの会話に気をつけてみてください。何か発見したら、授業で教えてください」等と伝えておくと、学ぶ意欲がさらに高まります。

3. オノマトペで味つけを

「日本語はオノマトペが多いので、難しい」と言われます。でも、それを大変だと思っ
たのではなく、「面白い！」と思ってもらえたら、しめたものです。また、ちょっとした
ルールも伝えておくといいと思います。

グエンさんの吹き出しに、「さらさらした肌」「ざらざらした肌」がありますが、清音と
濁音によるイメージの違いを伝えるといいと思います。

- * 清音は、小さい物、軽い物、きれいなものを表す。
- * 濁音は、大きい物、重いもの、汚いものなどを表す。
- * 半濁音は、清音と濁音の間の物、弾む様子を表す。

小石がころころ転がる／岩がごろごろ転がる
星がきらきら光っている／夏の太陽がきらきら照っている
雨がしとしと降る／雨がぽつぽつ降る／雨がざあざあ降る

介護現場では、言葉で身体の動きを説明するよりも、オノマトペを使ったほうが利用者
さんに伝わりやすいことがあります。特に、認知症の方には、オノマトペで伝えたほう
が分かりやすいことがあります。本書でも、「含嗽⇒うがい⇒ガラガラペ（3課）」「嚥下
する⇒飲み込む⇒ゴックンする（7課）」といったことが記されています。

いくつか「からだに関するオノマトペ」を載せておきます。

- * のどがひりひりする。
- * 心臓がどきどきする。
- * やけどで手がひりひりする。

- * 疲れてくたくただ。
- * お腹がぺこぺこだ。
- * のどがからからだ。

4. 「短縮語」に慣れよう

「ことば4」では介護の短縮語を中心に書きましたが、ここでは、日常生活で使われる短縮語をもう少しプラスしておきます。適宜入れ込むといいと思います。

- | | |
|---------|---------|
| * ドタキャン | * ダントツ |
| * コンビニ | * ファミレス |
| * メアド | * デジカメ |
| * サンド | * マック |
| * スタバ | * エアコン |
| * 部活 | * 秋葉 |
| * ディスる | * ミスる |
| * アじる | * サボる |

流行りの若者言葉・略語に関しては、何年かすると古くなったり、使われなくなってしまったりすることがあります。学習者が使うというより、「聞いて分かる言葉」として伝えることが大切だと思います。

- * イミフ (意味不明)
- * カマチヨ (かまってちょうだい)
- * とりま (とりあえずまあ)
- * オケる (カラオケをする)

「短縮語」の他に「縮約形」にも触れておくといいと思います。初級までにしっかり学んできている学習者の方もいますが、そうでない場合には、介護現場での会話理解に役立ちます。

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| * ~ておきます | ⇒ | ~ときます |
| * ~てしまいます | ⇒ | ~ちゃいます |
| * ~てはいけない | ⇒ | ~ちゃいけない |
| * ~なければならない | ⇒ | ~なくちゃ/ないと |
| * ~すれば | ⇒ | ~すりゃ |
| * ~てあげる | ⇒ | ~たげる |

5. 利用者さんの名字に注目

まず、クイズ「月見里」の答えを記します。

答え：「やまなし」です。山がなければ、お月さまがよく見えます。

読み物の中にも、いくつか珍しい名字を入れておきましたが、もう少し挙げておきましょう。ちょっとした隙間タイムに、出してみると面白いですね。

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| 1) 小鳥遊さん | 2) 一口さん | 3) 何森さん |
| 4) 一番合戦さん | 5) 四十九院さん | 6) 砂金さん |
| 7) 雲英さん | 8) 八月一日さん | 9) 禿さん |
| 10) 百鬼さん | 11) 食堂さん | 12) 一尺八寸さん |
| 13) 不死川さん | 14) 日日さん | 15) 七五三 |
| 16) 春夏秋冬さん | 17) 京都さん | 18) 四十八願さん |

答え：

- | | | |
|----------------|----------|---------------|
| 1) たかなし | 2) いもあらい | 3) いずもり |
| 4) いちまかせ／いちばがせ | 5) つるしいん | 6) いさご |
| 7) きら | 8) ほずみ | 9) かむろ |
| 10) なきり | 11) じきどう | 12) かまつか |
| 13) しなずがわ | 14) たちごり | 15) しめ |
| 16) あきなし | 17) みやこ | 18) よいなら／よそなら |

この「読み物」では、日本人の名字について取り上げましたが、ここで、「名字ではなく、名前で呼ぶこと」について考えてみたいと思います。

基本的には介護現場では、「田中里子さん」には、「田中さん」と名字で呼びます。利用者さんの中には、「里子さんと呼んでほしいなあ。そのほうが親しい感じがするから」という人もいるかもしれません。そのあたりは、臨機応変に対話をしながら対応することが大切です。また、一つの施設に何人も「田中さん」がいる場合には、工夫が必要です。